

日本山岳会 越後支部報

第 5 号

平成24年9月15日
発行 日本山岳会越後支部
発行者 山崎 幸和
新潟県燕市吉田大保町4-8
TEL・FAX 0256-93-2655
広報委員長 加藤 明文



私の一枚

飯豊連峰の前衛峰、二王子岳は1420米、平野部から立ち上がり冬の季節風を受け厳冬期は、岳人をも容易に近づけないが、わずか数日だけの晴天を逃さず、2月中旬登頂を試みた。巨大な雪庇の向こうに白く輝く飯豊を時を経つのも忘れ眺めていたら、ツユカブラが赤く染まり始め、夢中で撮影したのだがモノクロームフィルムだったのが、心残りでもある、私の一枚となった。

浪花 徹 (新発田市)

第五十五回高頭祭の報告

本望 英 紀 (新潟市)

越後支部恒例の高頭祭が平成二十四年七月二十五日に第五十五回を迎え、弥彦山の大平園地で行われた。当日は山麓は晴れているが弥彦山頂付近は雲が立ち込め視界は生憎だった。

私は高頭祭に参加してもう四十年経過。この間、悪天候で中止となった記憶はないが、今年以上にガスで視界が効かない時は何回もあった。特に印象深いのは、佐々保雄会長が来山された昭和五十八年の第二十六回の時は視界二〜三mで風雨となり、碑前での祭礼はそこそこに広場脇の東屋に逃げ込んだ記憶がある。しかし、天候は次第に回復してきて松明登山祭は予定通り無事実施され、体育館で参加者の記念写真がやっと撮れた状態だった。

高頭祭はこれまで多くの著名登山家をお招きして講演をお願いしてきた。今年には本部より元副会長の松田雄一名誉会員(昭和三十一年マナスル初登頂隊員)からお出でいただいた。

山崎幸和支部長の開会挨拶で、松田雄一氏の紹介が為され、前支部長の平田大六支部名誉会員より神官役を務めていただいた。越後支部で制作、故佐藤一栄元支部長のデザインによる半纏を羽織った平田大六氏の独特な祝詞は誠にありがたく、約六十名近い参加者一同は頭を垂れて御幣によるお祓いを受けた。支部長、松田名誉会員、県山脇の遠藤理事長、本間副支部長、地元弥彦・吉田の代表者らによる玉串奉奠後、遠路からの会津の佐竹秀子、関西支部の宗實慶子、都内から穴田雪江の女性三会員が

高頭翁の寿像に献酒された。

引続き松田雄一氏から『高頭仁兵衛と藤島玄のこと』と題して講演をいただいた。内容を要約すると、日本山岳会は明治三十八年十月単に「山岳会」と称し創立されたが、越後の高頭は発起人七人中唯一地方の人で、他の六人は東京近辺であった。当初から資金不足の会に対し、高頭は千人分の会費に相当する年千円を十年間支援すると約束し実行してくれた。そのおかげで今日の日本山岳会がある。また、藤島玄は戦後全国に先駆け越後支部を設立し全国の各支部設立の気運を盛り上げた人。飯豊・朝日連峰を開拓し、その集成地図作成等の功績を為した。藤島氏が本部へ上京の折には郊外の拙宅に泊って行った等の内容であった。講演後、記念撮影を為し参加者は野外での懇親会で旧知の人と楽しい会話が弾んだ。

その後、弥彦山頂での新潟県登山祭に合流、安全登山の祈願を行い、松明をかざして下山し、灯籠神事で賑う市中を松明行進。この弥彦松明登山祭も来年は第六十回を迎える。

翌二十六日は長岡市内の高頭邸跡と墓参りに山崎支部長と本間宏之副支部長らが案内。そして山本五十六と河井継之助記念館も見学。この折、松田氏と旧知の仲である室賀輝男名誉会員がわざわざ面会にお出でになり、思いがけない再会に大感激されて松田氏は帰京されたという。この様な配慮に尽力された各位に謝意を申し上げます。

総会親睦登山

山開きの守門大岳へ

浅野 巨寛 (長岡市)

五月二十七日、夜半の星空が予想していたように晴れわたった朝を迎えることができた。おりしも今日は長岡市側の守門岳の山開きだ。早朝から保久礼登山口を目指す車が後を絶たない。登山希望者二十四名の点呼をとって出発を少し早め七・三〇分マイクロバスで保久礼を目指す。駐車場の混雑をさげ三〇〇m手前で全員下車、市の職員や地元守門山岳会のサーブスする豚汁で賑わう保久礼で点呼と打ち合わせをする。宇佐無。登山者も多く、越後支部員の足並みもそれぞれである。と最後尾を遠藤家之進正和会員・桜井正一会員にガードして貰って登り始める。新緑のブナ林と残雪、ウグイスの囀り、満点のロケーションにいついピッチも上がる。キビタキノ小屋の少し下の雪田で一休みがてら後続との調整をはかる。橋本正巳会員と多田政雄会員等が少年のような軽い足どりで先頭になつてくれた。途中、佐竹会員から「コミヤマカタバミ」、七沢会員から「ハワサビ」などの説明をうける。「ハワサビ」の白い小さな花と涼やかな香り辛みが印象的だった。

途中の展望台で小休止、すぐ上が不動平(二、二六八m)で大岳のざわめきが聞こえるようだ。まだ豊かな残雪を踏みしめながら目崎会員等と春霞の魚沼方面の山々を名指しながら楽しい登高がつづく。こんなとき守門岳会の上村弥太郎から習った作者不明、題名不明の「守門のほれーば 霞もたーちて ヨイヨイ 越は目の下、越は目の下 花のうみ」をつい口ずさんでしまう。大岳頂上の新しくなった鐘の音が聞こえ、人々の歓声が聞こえたと間もなく巢守神社奥ノ院のある広場に出た一〇・〇〇少し前だ。青雲、袴岳など主峰を見渡せる豊かな残雪の上にシートを敷いて大休止となる。一・一〇〇からの安全祈願祭には山崎支部長が玉串を捧げ、当日の最年少登頂の小さな子供の玉串、最高齢の登頂者は坂井厚支部名誉会員(八十四歳)が指名されて玉串を捧げ大きな拍手がわいた。会員全員記念撮影後一・一三〇に下山を開始、一三・三〇無事全員下山、点呼後マイクロバスで宿舎の刈谷田ニューホテルに一四・〇〇無事着いて楽しかった守門登山終わった。

山の紹介

県央 威守松山(一、二二四・二m)

加藤記代子 (新潟市)

威守松山は新潟県南魚沼市清水に位置する。見事な天然樺林をかかえ集落を雪崩から守っているたいせつな山であるが知られていない。巻機連峰の知名度が高く、その連峰がひととき目立つゆえ見落とされいている。逆に連峰の景観を満喫できる心暖まる山域です。

山名を地元及び清水生産組合・塩沢市民センター商工観光課に尋ねたが不明であった。やむなく文字から繙くことにしたが解明はつぎのように中途半端である。(参考資料 ①旺文社 漢和辞典 ②學燈社 漢字語源辞典)

山名

「威」は、①古くは一家の権力をにぎっている女、しゅうとめの意。のちにおそれすの意に用いる。

②へこまず、抑えつける。

「守」は、①家を意味するをを表し、同時に家の中で仕事をする。ひいて支配しおさめる意、また守る意。

②かかへこみ、周囲からしめつけて離さない。

「松」は、松はチヨウセンゴヨウ・キタゴヨウがあるが不明。樺の天然林を指しているとは考えられない。

コース

清水自然探勝モデルコースとして幾通りかあるが一番近い距離を紹介する。

桜坂林道→一橋大学ワンダフォーム→寺屋敷跡→稜線→威守松山山頂→往復

桜坂林道に面している一橋大学ワンダフォームが、登山口です。道は不明確であるから八五八mの稜線にある鉄塔から北西に延びている送電線を目印に南へ稜線を目指す。稜線に出ると樹林帯の隙間から七ツ小屋が望まれる。(この稜線上から鉄塔は見えないが約一六〇m下の稜線にある。その手前には柄沢林道への分岐もある。なお鉄塔から清水バス停に道はあるが非常に不明確)

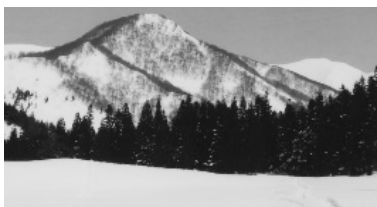
山頂直下は、わずかな距離であるが急登の連続です。山頂に辿ると展望に歓喜あふれ苦しさを忘れてしまう。巻機連峰から米子頭山・柄沢山に伸びる線と面の起伏が心を癒す。

残雪期には雪崩を考慮し柄沢林道からアタックもよい。雪がないとうつとしい森林であるが積雪では広い空間になる。快晴になるとスカイブルーと白銀のコントラストが素晴らしく、雪の海原で一時を過ごしたい。また、新人訓練に雪と戯れながらコース・雪崩等学ぶには打ってつけであると思う。

コースタイム

威守松山山頂まで二時間

(平均年齢六十五歳・女性)



新潟県の峠道紹介②

万治峠

森沢 堅次 (会津若松市)

まんじとうげ。明治・大正時代から昭和の初めに画家、書家、俳人として活躍した小川芋銭（おがわうせん 一八六八〜一九三八）は「卍峠」と略記した。「カツパの芋銭」は会津若松に縁があり、明治四十三年八月、会津若村の長尾柳涯の食客となった。大正四年六月、四回目の会津来訪の折、山都（現喜多方市山都町）の田代蘇陽ら総勢五人で西会津町野沢を出発し、万治峠を越えて実川（現東蒲原郡阿賀町鹿瀬実川・現在無人）に到着した。六月十九日から二十三日まで代々嶺頭（くわがしら・庄屋）を勤めた五十嵐家に逗留した。実は明治四十三年五月に明治天皇にかかわる大逆事件があり、幸徳秋水、菅野スガ等が検挙され、芋銭にも刑事の尾行があったと言う。芋銭一行の実川逗留を見越した責任を問われて、実川の駐在が免職された。この気の毒な話は村が無人になった今でも、口伝となっている。

芋銭は万治峠と実川を吟じて次の二句を残した。

一 わするなよ 万治峠の ほととぎす
二 時鳥 武陵の民の 早苗取

第一句は会津を代表する日本画家酒井三良の筆により、赤御影石に刻まれて、昭和

三十七年八月十日に披露された。好天の下に行われた句碑開眼除幕式には芋銭の孫小川茂也氏も参列した。

第二句の句碑は少し遅れて、今は無住となった実川の山溪寺にある。両方共、最後の実川住民となった五十嵐彦吉氏が建造費を負担し、建立の費用は鹿瀬町民や西会津の俳人有志、さらに安部能成、小杉放庵、酒井三良、小川知加良等五十嵐と縁の深い方々の絶大な力で竣工した。これらの経緯は「万治峠学会紀要第四号」（平成十二年十月二日 会津坂下町二瓶義春会長発行）に詳しい。

万治峠を探訪しようとすれば自家用車が便利である。JR磐越西線豊実駅で国道四五九号を離れる。馬取川ぞいのアスファルト車道を北上して馬取と荒沢の集落を過ぎる。左手に馬取林道が延びていて、ここからは未舗装となる。林道を3km程行くと左手に「万治峠登山口」の木標がある。一寸下側に駐車できる小広い場所があるので駐車をして身支度を整える。

登山口の標高は四五〇m、六五〇mの峠まで二〇〇mを登るだけである。途中小沢を横切るので良い水場となっている。杉林が現れると峠は近く、右手にブナの巨木が現れると先に峠に着いた者の喚声がかきこえて来る。

赤松とヒメコマツの巨木が門のように立ち、句碑は赤松の側にある。ヒメコマツの

下には「飯豊山」の石碑がある。

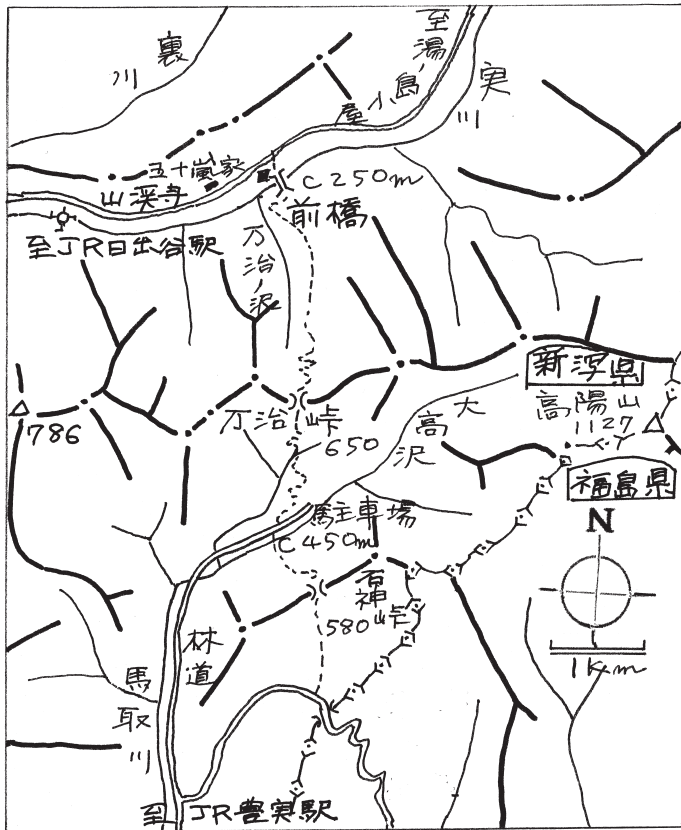
眼前には実川流域のむこうに烏帽子岳（一五七三m）から大日岳に至るスカイラインが望まれ、少し実川側に歩を移せば飯豊山を見る事ができる。「わするなよ」句碑の正面に立てば飯豊山が見える様に敷設したが、現在は木立の繁茂がこれを妨げている。

五十嵐家は平成三年五月に「国指定重要文化財」に指定されたが、次いで平成十四年、五十嵐家は旧鹿瀬町に一切を寄贈して五泉市に移住した。その後、平成十九年九月五十嵐タカさんが亡くなり、翌年彦吉さんも亡くなった。万治元年から平成二十年まで、およそ三三〇年続いた実川の山村と

しての命運がつきた事になる。

実川までは磐越西線日出谷駅を拠点として国道四五九号を東進して左折する。小荒集落を経て、七km未舗装の車道を対向車に注意しながら走る。途中右手山側に掘られたトンネルがある。かつて彦吉翁にその名称を問うと「人間雪洞」と答えられた。車がなくて実川から日出谷に用を足す時、雪崩を避けて通った跡である。

複数台の車を準備すれば峠越えができる。ただ万治峠から実川に下るだけで一時間を要する難路で、途中の沢水は飲用不適と注意書がある。かつての鉱山経営の影響で何か重金属が含まれている様である。



万治峠概念図

山靴

花に魅せられて

小林 厚子 (小千谷市)

それまで、日本山岳会に自分が入会するとは思っていませんでした。それほど登山歴があるわけでもなく、技術も知識もない者が入会するなんてとんでもないことでした。

「高山植物の展示パネルがあるから」と誘いを受け、一昨年の支部晩餐会に参加し、そこで出会ったのが加藤明文さんでした。こんなすごい人がいるんだと驚き、もっと話が聞きたいという思いが入会のきっかけでした。

私も高山植物が大好きです。学生の頃登った山で出会ったチングルマやハクサンイチゲ、コマクサなど高山の花たちに心惹かれ、その後もちよつとずつ写真を撮ってきました。加藤さんは自分で撮った写真を分類整理するとおっしゃいました。それを伺い、私もまねしてみようと始めました。名前が分からなかったりすると時間がかかり、私にとっては大仕事です。何年かかかるか分からないけれど、今までの写真を整理したときに何か見えてくるかなと思っております。

今まで、高い山に登る機会が少なかったのですが、小千谷ハイキングクラブに入っで知り合った方々のお陰で、いろいろな山に登ることができました。そして、そこで出会った草花は強く心に残っています。五

竜岳で初めて見たイワウメやイワヒゲのかわいらしさ。雨の鹿島槍でひっそり咲いていたイチヨウラン。谷川のホンバヒナウスユキソウ。八ヶ岳のホテルランとツクモゲサ。花が多かった火打山、鳥海山、薬師岳、トムラウシ。

花の時期は限られています。その時その山に登ったから出会えたわけです。そんな花との出会いを楽しみに、これからも山に登りたいと思います。まだ出会っていない花がたくさんあります。写真を撮っても、名前が分からない花も多いです。「この花は何？」と聞かれたら名前が言えるようになりたい。それが私の目標です。



チングルマ (大雪山)



チョウカイチングルマ (鳥海山)

チョウカイチングルマは花弁の先はきれいに丸く花の径は三センチと大きい。

事務局連絡

一 平成二十四年度支部会費納入のお願い

今年度支部会費(¥一、〇〇〇)納入のお願いをしておりますが、七月三十一日現在で三十二名の方がまだ未納となっております。支部活動の運営を円滑に進めるため、至急支部会費納入にご協力をお願いいたします。郵便局振込用紙をお送りしてありますが、紛失された方は別記の郵便振替口座に入金していただくようお願いいたします。尚、振込み手数料(¥一二〇)は、各自でご負担願います。

郵便振込口座：0052016197779

公益社団法人日本山岳会越後支部

(八月二日に振込口座名義を、社団法人日本山岳会越後支部に名義変更いたしました)が、従来の社団法人日本山岳会越後支部でも入金可能です。

二 二〇二二年度日本山岳会全国支部懇談会

追加申込み受付(早急)

今年度支部懇談会は、千葉支部設立五周年の節目に当たる記念行事として盛大に開催されます。追加申込み者を募集しておりますので、ご希望の方は早急にご連絡ください。

期日：二〇二二年十月二十日(土)～二十一日(日)

場所：国民宿舎サンライズ九十九里

千葉県山武郡九十九里町真亀四九〇八

Tel: 〇四七五-七六一四一五一

定員：三〇〇名(宿泊可能人数)

費用：一万七千円

行事：二十日(土) 十四時受付

記念講演会、懇親会、アトラクシヨン
二十一日(土) 櫻で歩こう九十九里ウォーキング九十九里宮道五km
笠森グリーンルート関東おれあいの道(二)km

支部申込締切：九月初旬(早急)

支部申込先：事務局 桐生恒治

(TEL: 〇二五八-一六二一-二四八)

三 支部会員移動連絡

(二〇二二年四月一日～二〇二二年八月一日現在)

(1) 物故会員

①久保田 全 (No.六〇五三) 四/九逝去

②五島 保夫 (No.二七七七) 四/二十二逝去

(2) 住所変更

①平野 彰 (No.六九二八)

〒三三一一-〇一三三

栃木県宇都宮市雀の宮四二〇一-一四

Tel: 〇二八-一六一二-二五七九

②皆川 陽一 (No.一四〇三〇)

〒九四〇-〇〇六四

長岡市殿町二一四七 サーバス柿川通三〇四

Tel: 〇九〇-四〇一三一-一六〇五

(3) 支部会員総数

二〇二二年八月一日現在

支部員総数二一七名、会友二名

編集後記

信じがたい話したが「リンドウ」の花を見た事がない。また、エゾリンドウやヤマリンドウを竜胆だと思っている人が多し。山麓にあるこの花は開発によって激減した事は認めるが「玄さん」なら観察力不足と一喝されよう、今回もお願いした力作に感謝。(AK)